

『改訂第2版JPTECガイドブック』正誤表

2刷にて修正		
頁	誤り	正
viii 目次右段3行目	2. 反応を確認して気道開放の有無を評価.	2. 反応を確認して気道 開通 の有無を評価.
p16 右段上から1行目	し, 受傷後1時間できるだけ早期に手術開始につな	し, できるだけ早期に手術開始につな
p19 図2-1-3 第2段階 右ボックス	○頭部・胸部の皮下気腫	○ 頸部 ・胸部の皮下気腫
p29 左段下から17行	・すべての傷病者の血液, 汗以外の体液には感染性	・すべての傷病者の血液 ならびに 汗以外の体液には感染性
p32 具体的行動の2 行目	反応を確認して気道開放の有無を評価	反応を確認して気道 開通 の有無を評価
p33 1行目	2. 反応を確認して気道開放の有無を評価	2. 反応を確認して気道 開通 の有無を評価
p33 上から4行目	・気道の開放を確認する。	・気道の 開通 を確認する。
p33 上から5行目	声を出すことができれば気道は開放されており,	声を出すことができれば気道は 開通 しており,
p35 左段上から8行目	の流れに沿って気道開放→呼吸→循環→意識とする	の流れに沿って気道→呼吸→循環→意識とする
p35 見出し: 下から4	2. 反応を確認して気道開放の有無を評価	2. 反応を確認して気道 開通 の有無を評価
p35右段上から2行目	気道の開放を確認する。声を出すことができれば	気道の 開通 を確認する。声を出すことができれば
p35 右段上から3行目	気道は開放されており, 傷病者の応答が適切ならば	気道は 開通 しており, 傷病者の応答が適切ならば
p36 脚注内2行目	脈拍においては頻脈(100回/分以上)を速い, 徐脈(60回/分以下)を「遅い」とする。	脈拍においては頻脈(100回/分以上)を「速い」, 徐脈(60回/分以下)を「遅い」とする。
p38 左段下から12行	が開放している必要がある。気道が開放していれば	が 開通 している必要がある。気道が 開通 していれば
p39 左段下から3行目	の開放を保障するものではない。したがって, 留置	の 開通 を保障するものではない。したがって, 留置
p39 右段下から1行目	助換気および人工呼吸実施の大前提は気道が開放し	助換気および人工呼吸実施の大前提は気道が 開通 し
p39 図2-3-6	A気道の開放	A気道
p48 上から7行目、9 行目、表2-4-1 タイトル	検出すべき	疑う べき
p48 表2-4-1 緊 張性気胸と腹腔内出 血の間		1段加えて 左項目: 大量血胸 右項目: 圧痛、呼吸音の減弱
p48 表2-4-1 「TAFな開緊、血をみ るぞ」の2行目	血: 血胸・腹腔内出血・骨盤骨折・両側大腿骨骨折・大出血	血: 血胸(大量血胸)・腹腔内出血・骨盤骨折・両側大腿骨骨折・大出血
p86 図2-4-48 左図 上から7行目	橈骨・正中・正骨神経損傷	橈骨・正中・ 尺骨 神経損傷
p86 図2-4-48 右図 下から1行目	頸骨・腓骨神経損傷	脛骨 ・腓骨神経損傷
p92 ポイント18行目	瞳孔観察(瞳孔径・対光反射、共同偏視などの眼球運動の異常の有無)	瞳孔観察(瞳孔径・対光反射)、共同偏視などの眼球運動の異常の有無

p96 2. 観察項目1)自覚症状の変化を確認するの項上から2行	により, 意識レベルや気道の開放状況などの生理学	により, 意識レベルや気道の状況などの生理学
p98 「1. 概念」の項上から5行目	椎・頸髄損傷を生じる可能性がある。頸髄損傷があ	椎・頸髄損傷を生じる可能性がある。頸髄損傷があ
p116 ポイント1行目	気道を開放させ, 適切な酸素化と換気を維持することは, 救急現場でもっとも優先されなければならない	気道を 開通 させ, 適切な酸素化と換気を維持することは, 救急現場でもっとも優先されなければならない
p192 左段上から2行	2) 気道開放の評価	2) 気道の評価
p202 左段2. 判断のポイント1) 初期評価上から4行目	気道の不完全な開放, 頻呼吸や遅い呼吸, 浅い呼	気道の不完全な 開通 , 頻呼吸や遅い呼吸, 浅い呼
p225 図7-3-2図内自発呼吸の横	気道開放	気道 確保
p225 図7-3-2図説明2行目	定すればそれ以降の評価は行わない。トリアージ実施中は気道開放と止血以外の処置は行わな	定すればそれ以降の評価は行わない。トリアージ実施中は気道 確保 と止血以外の処置は行わな
p225 右段上から9行	位変換, 下顎挙上・異物除去等を行い気道の開放を	位変換, 下顎挙上・異物除去等を行い気道の 確保 を
p226 左段上から9行	がって気道開放および活動性外出血に対する止	がって気道 確保 および活動性外出血に対する止
p248 索引中段下から4行目	——開放 33,35,192	—— 開通 33,35
p248 索引右段上から3行目	気道確保 32,35,37,38,104,125,139,148	気道確保 32,35,37,38,104,125,139,148, 225
ポケットリファレンスロードアンドゴーの図第2段階 右ボックス	○頭部・胸部の皮下気腫	○ 頸部 ・胸部の皮下気腫

3刷にて修正予定		
頁	誤り	正
p34 2行目	心肺蘇生, 全身固定を行って搬送を開始する。	心肺蘇生, 必要に応じて 全身固定を行って搬送を開始する。
p35 左段下から6~7行目	, 他動的な不可をかけないことで	, 他動的な 負荷 をかけないことで
p36 右段下から9行目	心肺蘇生, 全身固定を行って搬送を開始する。	心肺蘇生, 必要に応じて 全身固定を行って搬送を開始する。
p98 右段下から7行	他動的な不可をかけないことで頸椎の保護を行う。	他動的な 負荷 をかけないことで頸椎の保護を行う。

p173 図4-5-3

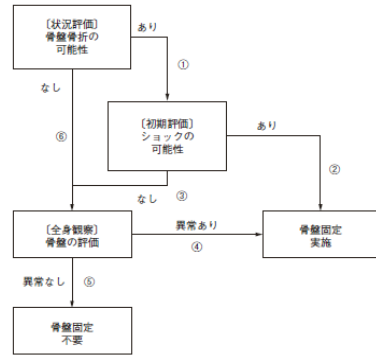


図 4-5-3 骨盤固定の適応判断